

研究・調査報告書

報告書番号	担当
254	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Binge drinking in pregnancy and risk of fetal death. 妊娠時の多量飲酒と胎児死亡の危険	
執筆者	
Strandberg-Larsen K, Nielsen NR, Gronbaek M, Andersen PK, Olsen J, Andersen AM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Obstet Gynecol. 2008 Mar;111(3):602-9.	
キーワード	
多量飲酒、胎児死亡、妊娠週数、コホート研究	
要 旨	
<p>目的: 妊娠後の最初の 16 週間のアルコール多量飲酒(1 回に 5 杯以上の飲酒)のエピソードの頻度とタイミングが、胎児死亡の危険を増加させるか検討した。</p> <p>方法: 研究は 1996 年から 2002 年までデンマークの National Birth Cohort に登録されていて、妊娠中(n=86,752)もしくは流産後(n=2,449)に行われたインタビューに参加した 89,201 人の女性のデータに基づいている。総計で 3,714 人の胎児死亡があった。データは Cox 回帰モデルによって分析された。</p> <p>結果: 多量飲酒エピソードの頻度、タイミングともに早期(12 週もしくはその前)ま、後期(13-21 週)の自然流産のリスクと関連しなかった。しかしながら、3 杯以上の多量飲酒はそうでない飲酒者に比べて、死産(22 週および後)の調整ハザード比が 1.56(95%信頼区間 1.01-2.40)であった。1 週間あたり平均 3 杯もしくはそれ以上で 2 つかそれ以上の多量飲酒のエピソードがある女性では、多量飲酒がなく平均以下の女性に比べて、2.20(95%信頼区間 1.73-2.80)のハザード比を示した。</p> <p>結論: 妊娠時の 3 杯以上の多量飲酒は死産リスクを増加させたが、多量飲酒の頻度、タイミングとともに、臨床的に認識された妊娠における自然流産のリスクの増加に関連していなかった。</p>	